

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	10
都道府県名	群馬県

【 〴〵 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	白沢村立白沢小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	2	1	1	11	19
児童数	46	42	48	29	48	34	2	249	

研究の概要

(1) 研究主題

自ら学び自ら考える児童の育成
- 算数科における個に応じた指導の工夫・改善を通して -

(2) 研究主題設定の趣旨

・本校の児童は、与えられた課題に対しては熱心に取り組む児童が多く、自分なりの考えを進んで発言しようとする態度が育ちつつあるが、知識・理解の程度、技能の習熟、学習したことの定着等に個人差が大きい。また、CDTの結果、算数では「表現・処理」は比較的よくできているが、「数学的な考え方」がやや弱く、特に応用問題を苦手とする傾向にある。

・本校の教育目標は「心身共に健康で、自ら考え、正しく判断できる力をもち、基礎学力と実践力を身に付けた、人間性豊かな白沢の子供を育成する。」であり、本年度は具体目標の「思いやりのある子」「よく勉強する子」「ねばり強い子」の中で「よく勉強する子」を重点目標とする。それを具現化するために、自ら考えて学ぶという視点、基礎・基本を身に付けるという視点を大切にしていきたい。

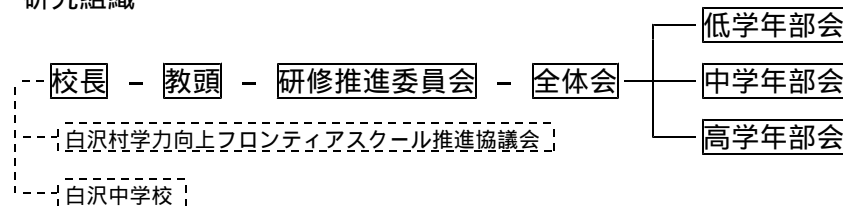
・算数は習熟度の差が表れやすい教科であることや、全職員共通理解のもとに焦点を絞った実践的研究に取り組みたいとの考えから、研究の対象教科を算数とし、全学年でTT指導および少人数指導を実施することとした。また、昨年度からの研究や児童の実態調査等を継続していくことで、さらに研究を深めたいと考えた。

以上のことから、算数科において個に応じた指導の工夫・改善を通して、基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える児童を育成することをねらいとし、本主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

研究組織



きめ細かな指導を行うための指導体制、指導方法の工夫改善

- ・算数科において児童一人一人が基礎・基本を確実に習得できるよう、1・2年生ではTT指導、3年生以上では習熟度別または課題別編成の少人数指導やTT指導を実施した。
- ・TT指導については、T1・T2を輪番制で行い、指導計画を主になって立てたT1が全体の授業を進め、T2が個の補助指導をしたり必要に応じて補助説明や板書をしたりするようにした。それにより、個々の実態が把握しやすく、個に応じた支援を行うことができた。
- ・少人数指導については、3年生以上は学級内習熟度別指導を基本にしながら、2学級3コースに選択の場を広げたり、課題別コースにしたりと多様な形態をとった。それにより、単元の学習内容や児童の実態に応じた指導を行うことができた。

- ・指導形態は、学級内習熟度別2コース《じっくり・チャレンジコース》が多く、担当は児童理解や実態把握ができるよう担任と担任外が単元ごとに交代した。
- ・単元の学習内容や児童の実態によっては、次のような形態もとってきた。
 - ア.

TT	課題別	TT
----	-----	----

 (新しい概念が多く、興味関心が分れやすい単元)
 例：3年「かさ」学級内2コース《花瓶・ペットボトルコース》
 「表とグラフ」学年3コース《スポーツ・給食・くだものコース》
 4年「三角形の性質」2コース《正三角形・2等辺三角形コース》
 - イ.

課題別	TT	習熟度別
-----	----	------

 例：5年「平行四辺形と三角形の面積」《方眼・折り紙・パソコンコース》
 《じっくりコース・チャレンジコース》
 - ウ.

TT

 (作業に個人差が現れやすい単元・コンピュータを利用する単元)
 例：5年「垂直と平行、四角形」
 6年「直方体と立方体」

図1

- ・コース選択については、児童がコースを選択する際、その単元の学習内容やコース別の学習の進め方をおおまかに説明したプリントを基にオリエンテーションを行い、レディネステストも参考にしながら、自分でコース選択できるようにした結果、児童の選択能力も高まった。また、そのプリントに選択したコースを記入したものを家庭に持ち帰ることで、保護者の理解も得ることができた。

(図1：コース選択プリント例)

3年「10000より大きい数を調べよう」

15分

2学期最後の算数は、「10000より大きい数をしらべよう」という勉強です。ここでは、チャレンジコースとじっくりコースの二つにわかれて勉強しますが、どちらのコースも、めあては「千万の位までの数について、数のしくみや表し方などがわかるようになる」ことです。勉強のすすみぐあいいもだいたい同じです。おもな学習方法は次のとおりです。

じっくりコース	チャレンジコース
千の位までの数のしくみや書き表し方をよくしゅうし、数カードや位取り表を使って友だちや先生と話し合いながら新しい問題にじっくり取り組みます。	千の位までの数のしくみやから大きな数のしくみや考えたりみのまわりから大きな数をさがしたりして、新しい問題にもチャレンジする。

3年組 名前()

○どちらのコースで勉強しますか。
 じっくりコース チャレンジコース

○やってみたい勉強や、心配なことはありますか。

- ・少人数・TT指導の打ち合わせ会議の設定
- ・少人数・TT指導担当者や担任との打ち合わせ時間を、学年ごとに確保した。また、3年以上は学級内2コースの少人数指導を基本としているが、学年内3コースの少人数指導も可能なように、教科や指導者、学習室等の組み合わせを考慮して、時間割編成をした。打ち合わせ時間と構成メンバーは次のようである。
 - 1年 水曜 6校時前半 担任+担任外1
 - 2年 水曜 6校時後半 担任+担任外1
 - 3年 金曜 6校時 担任+担任外2
 - 4年 水曜 6校時 担任+教務主任
 - 5年 火曜 6校時 担任+担任外2
 - 6年 火曜 5校時 担任+担任外2
- ・打ち合わせ会議の内容は次のようである。
 - ア. 先週・今週の時数と翌週の予定の確認
 - イ. 単元の学習前
 - ・目標、評価項目の設定
 - ・指導形態、指導者、児童のコースの決定
 - ・教材研究、教材準備
 - ウ. 単元の学習中
 - ・進度の確認と個々の児童の情報確認
 - エ. 単元の学習後
 - ・座席表、チェックリスト、テスト等を基に観点別評価

(2) 研究の実際

- 公開授業 5年算数 単元名「面積の求め方を考えよう」 2学級3コース
- ・児童の習熟度や学習速度を考慮し、追究方法への興味関心を重視した少人数指導を行った。問題解決の過程では、多様な児童の実態や興味・関心に応えるために、「方眼コース」「折り紙コース」「パソコンコース」の3コースとした。児童は自分で選択したコースで、意欲的に自信をもって学習に取り組むことができていた。
- ・学習のまとめの過程では、補充的な学習を中心に学習する「じっくりコース」と発展的な学習を中心に学習する「チャレンジコース」の学級内2コースとし、個々の習熟の程度に合ったコースを選択し直した。課題別から習熟度別に組み直すことで、学習内容の補充、発展を個に応じてすることができた。
- ・コンピュータの活用は、巧遅によらずイメージ通りに自分の思考を表現でき、修正も容易であるので、求積方法を見いだすときに使ったり、学習のまとめに使ったりしたが、試行錯誤がしやすく有効であった。
- ・コースの実態に応じて、方眼用紙、無地の図形、コンピュータ画面などを用いた探究的な算数的活動を取り入れたことで、意欲的に自力解決をしていた。
- ・学習計画を立てる上で、三角形と平行四辺形のどちらの求積を先にするのがよいか、議論の分かれるところであるが、本単元では基礎基本の定着をめざし、既習事項から解決しようとする力を付けることをねらって、三角形の求積を先にした。
- ・各コースとも、児童の反応の予想と、それに対する支援を細かく考えていたので、個に

応じた指導ができていた。その結果、どのコースも多様な考えが出され、相互思考の交流が活発に行われた。

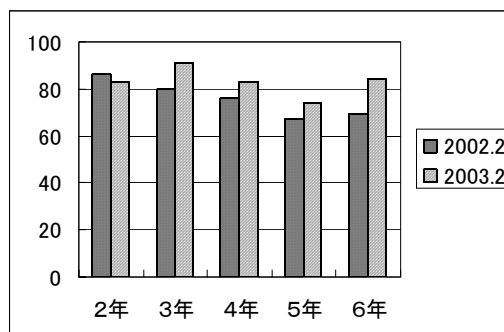
- ・「おおむね満足できる状況」「十分満足できる状況」それぞれの評価項目について、児童の立場や視点で授業ができるようさらに練り合う必要がある。指導と評価の一体化という観点から、評価項目の精度を高めていかなければならない。

(3) 研究の成果と課題

成果

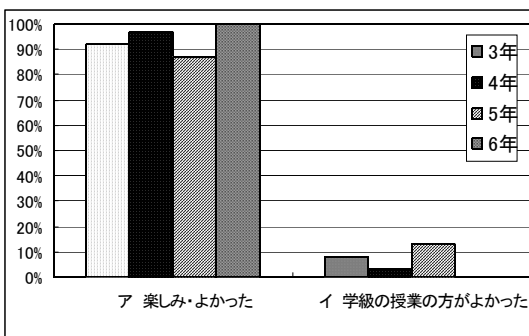
- ・右のグラフは、各学年の児童の13年度末と14年度末のCDTの平均正答率を比較したものである。14年度はTT指導や少人数指導のなかった2年の児童はわずかに下がっているが、3年以上はどの学年も正答率が伸びている。このことから、習熟度別を中心に少人数指導を行ってきたことは、児童の学力を向上させるために有効であったと考える。

観点別到達度学力検査(CDT)平均正答率

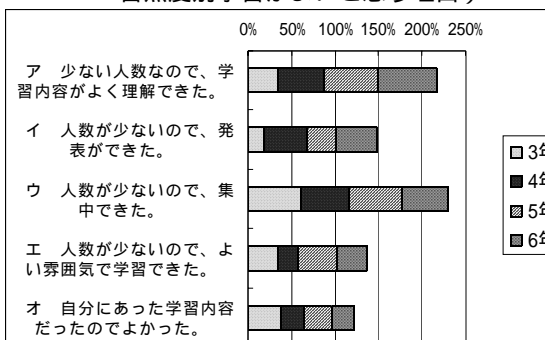


- ・下のグラフは、算数や習熟度別学習に対する意識調査を行ったものである。その結果を見ると、多くの児童が「コース別の授業がよい」と感じ、特に学習内容について「少人数なので理解できる」「自分に合っている」と答えている。このことから、習熟度別学習が定着し、そのよさが児童にも受け入れられてきたと考える。

習熟度別学習についてどう思いますか



習熟度別学習がよいと思う理由)



課題

- ・個に応じた指導の一層の充実を図っていく。そのために、基礎基本の確実な定着を図り発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発をしていく。
- ・評価項目の作成、見直しを行い、一人一人の学習状況を適切に評価することで、指導と評価の一体化を図る。あわせて児童の自己評価能力の育成を図る。
- ・Webページを全職員で分担し作成したが、学力フロンティアスクールとして研究成果の普及活動の面では不十分であったので、さらに積極的に情報発信ができるようにする。
- ・中学校との連携として研究授業の参観等ができたが、授業研究や情報交換の場を作るなどさらに連携を深めていく。

(4) 研究成果の普及の方策

Webページ

ホームページアドレス <http://www.vill.shirasawa.gunma.jp/shirasyo/index.htm>

学力向上フロンティアスクールにかかわる公開内容

- ・研修計画書
- ・校内研修構想図
- ・公開授業の案内
- ・講演会の案内
- ・TT指導の実践例(2年)
- ・課題別少人数指導の実践例(4年)
- ・習熟度を加味した課題別少人数指導の実践例(5年)

公開授業及び授業研究会(11月7日)

5年「面積の求め方を考えよう」(習熟度を加味した課題別少人数指導)
「学習指導案」及び「研究の概要」の配布

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

- ・算数科における個に応じた指導の工夫・改善と研究対象を絞り、少人数指導やT・Tによる指導といった指導形態の研究にとどまらず「授業改善」に視点を置いて研修を推進している。
- ・少人数指導やT・Tによる指導を充実させるため、打合せの時間を校時表に位置付けるなど全校体制で取り組んでいる。
- ・習熟度別のみならず興味・関心別、課題追究別など多様なコース選択による少人数指導、指導と評価の一体化を基にした発展的な学習や補充的な学習の教材開発にも取り組んでいる。